

(様式第5号)

調査研究追跡調査報告書

調査研究課題	C型肝炎ウイルス(HCV)のスクリーニング検査法に関する検討
研究期間	平成13年度～年度 1年間
目的	<p>我が国では年間33,000人(1998年)もの人が肝がんで亡くなっている。また、その予備軍であるHCV持続感染者(viremia)は200万人とも言われ、本県にも多くのviremiaがいるものと思われる。</p> <p>茨城県では昨年6月から「保健所等におけるC型肝炎ウイルス抗体検査事業」が始まった。測定系は日本赤十字社血液センターで採用しているPHA法により実施している。本法は、スクリーニング検査法であるとともにviremiaを拾い上げることが可能であるが、コストと手間がかかることが課題である。</p> <p>そこで、定量域の広い測定系を用いることによってviremiaをより簡便で効率的かつ高精度に拾い上げることができるとどうかを検討した。</p>
成果の概要	<p>定量域の広いCOBAS CORE(ロシュ)を用い、PHA法で検査した1248検体について抗体検査を実施した。さらに、各々の測定系で陽性となった検体については、遺伝子増幅法(PCR法)によりHCV RNAの検出を試みた。その結果、PHA法においては、抗体価の高い群56例中54例(96.4%)、中等度の群22例中2例(9.1%)からRNAが検出され、低い群(6例)の中からは検出されなかった。一方、EIA法では、測定値が高い群49例中46例(93.9%)、中等度の群10例中8例(80.0%)、低い群においては38例中2例(5.3%)からRNAが検出された。</p> <p>以上の結果から、定量域の広いEIA法を用いた場合でも、PHA法と同様に抗体陽性者をPCR法を行わなくてもviremiaであると判定することが可能である群、同じくviremiaではないと判定することが可能である群、PCR法によりviremiaであるか否かを確認することが必要である群の3群に分けることが可能である、ということがわかった。そして、EIA法の場合、PCR法を必要とする例数はPHAに比べ約半分であり、しかも、検出率は9倍も高いことがわかった。PCR法は、コストが高く手技も煩雑であるため、できるだけ避けることが望まれ、HCVウイルス検診に定量域の広い測定系を導入すれば、より簡便で効率的かつ高精度にviremiaを拾い上げることが可能であることがわかった。</p>
成果の普及・活用のために行われた活動等の実績	地方衛生研究所全国協議会の第16回関東甲信静支部ウイルス研究部会(於長野市)及び第61回日本公衆衛生学会総会(於さいたま市)において、本研究の成果を発表した。

普及・活 用の状況	<p>平成 14 年度から「保健所等における C 型肝炎ウイルス抗体検査事業」が定量域の広い EIA 法で行われることになった。また、同年度からは各市町村においても住民健診の中に肝炎ウイルス検診が導入され、その受託健診機関でも本測定系が採用された。</p> <p>ところが、年度半ばころ、住民健診において、低抗体価を理由として一旦「感染している可能性が極めて低い」と判定された住民に対し、急遽再検査が実施されることになった。低抗体価群の中に viremia が含まれていることがわかったためであるが、このことは本研究の課題として示唆したものである。</p> <p>このような行政サービスにも密着した問題に対処できるよう、県保健予防課や県内の健診機関等と速やかに研究協力体制の構築を図ることが必要がある、と考えられた。</p>
--------------	--